



日本共産党

北区議会議員

のの山けん 区政レポート

http://kyoukita.jp/nonoyama/ E-mail nonoyama@kitanet.ne.jp

No.215 2012.5.30

日本共産党北区議員団

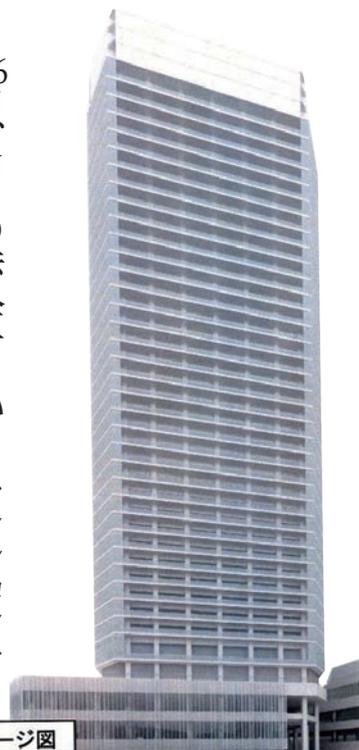
〒114-8508 王子本町1-15-22

ご相談は 090-2156-3510
お気軽に

十条駅西口 再開発を考える



26日、NPO法人区画整理・再開発対策全国連絡会議のよびかけで、東京23区再開発交流会が開かれました。今回のテーマは十条駅西口再開発。さっそく十条駅周辺を見学した後、上十条区民センターに移動し、意見交換をおこないました。37階146戸の分譲



イメージ図

十条西口駅前再開発ビルの予想図

超高層マンション計画 誰のための再開発なのか

マンションを駅前に建てる今回の計画では、入居する地元地権者（土地所有者・借地権者）への権利変換率は平均で96%、中には床面積が半分になってしまう店舗も出ます。一方、分譲マンション約450戸を売りさばいた利益は、参入しているゼネコンなど大手企業に入ります。大企業だけがもうかり、地権者の財産が損なわれるとすれば、計画そのものの合理性が問われることになるでしょう。（のの山けん）

人間らしく働ける社会を

民青同盟が「しゃべ労会」で交流



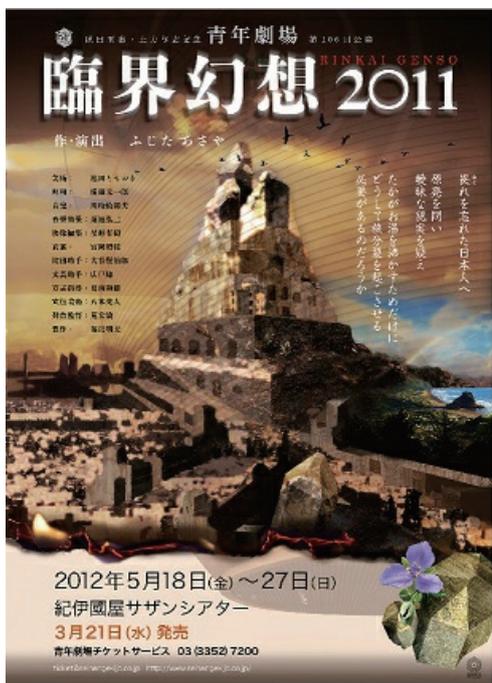
講演する池内さおり
衆院12区青年部長



27日夜、赤羽会館で民青同盟が主催する「しゃべ労会」が開かれました。この間、民青同盟がとりくんできた「若者・子育て世代実態アンケート」の集計結果が報告され、日本共産党の池内さおり衆院東京12区青年部長が講演。これを受けて、「一生懸命働いているのに給料が安い」など、率直な意見が交流されました。

人間社会と相容れない原発

青年劇場公演 「臨界幻想2011」



原発問題に真正面から取り組んだ青年劇場の「臨界幻想2011」を鑑賞、期待に違わぬ構成、演出、演技にうなりました。30年前に書かれ上演された戯曲を今日の時に改訂しての上演。当時は近未来物語でしたが、3・11を体験した私たちに、もはやSFでも幻想でもなく、まぎれもない現実として身に迫ってくる作品でした。

富む原発の町 心貧しき

原発労働者の青年の死をきっかけに、その真相に迫る家族や住民の行動を通じて原発が持つ構造的な問題を浮かび上がらせてゆきますが、中でも原発マネーによる住民の懐柔の描写が出色です。敦賀市の高木孝一元市長を登場させての演説場面では、実際におこなわれたスピーチを

効果的に使って、原発誘致自治体のみにくい利益享受を暴露。原発マネーに蝕まれた自治体を「富む原発の町心貧しき」と表現する一幕のラストは深く余韻を残します。

原発労働者の過酷な実態を告発

原発労働者の過酷な実態もリアルに描き切っています。原子炉内で放射線の警告音も無視して続けられる作業。被ばく線量のデータは会社が改ざんしていました。主人公の青年を助けようとしたのは、原発から原発へと流れ歩く出稼ぎ労働者でした。

劇中で描かれる非人間的な労働実態に、福島第1原発の事故処理にあたる労働者の姿が

雨の中 大技、決めた!

赤岩中運動会で「スーパー 4段円筒トリプルトップ」

28日、北運動場でおこなわれた赤羽岩淵中学校の運動会。お昼すぎまで晴れていた空も、午後3時前には激しい雷雨に。それでも男子全員による組体操では、練習の成果を生かして「スーパー 4段円筒トリプルトップ」の大技を見事一発で決めることができました。



ダブって映ります。

これは原発のみならず、現代日本社会の縮図でもあります。

原発の今後をめぐって岐路に立つ今だから

こそ、一人でも多くの人に観てもらいたい作品です。全国規模での再演の実現を願ってやみません。

みません。

(のの山けん)